

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242013

研究課題名(和文)板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Research on Official Painters to the Bakufu with a Focus on the Itaya Clan

研究代表者

田沢 裕賀(TAZAWA, Hiroyoshi)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・調査研究課長

研究者番号：80216952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,400,000円

研究成果の概要(和文)：江戸幕府の御用絵師板谷家に伝わった粉本類の資料を整理し、関連の伝来作品の調査を行った。この研究により板谷家がどのような仕事をおこなっていたか、その活動実態を資料と実作品を通して美術史的に明らかにした。

平成23年10月と平成28年1月の2回、東京国立博物館において板谷家伝来資料と実作品を展示した特集陳列を開催してリーフレットや会場解説を用いて成果をわかりやすく一般に紹介した。また、研究者向けに調査成果をまとめた報告書を作成刊行した。調査した板谷家伝来資料のうち重要資料172件をデータベースとして公開、今後も増補する準備を整えた。

研究成果の概要(英文)：We categorized and registered documents and other items handed down in the Itaya clan of the official painters of the Edo shogunate, including copybooks and painting drafts, and conducted research on artworks connected to these materials. Through our findings, we have gained a clearer understanding of the activities of the Itaya clan.

We presented our results to the general public in two themed exhibitions held at the Tokyo National Museum in October 2011, and January 2016, respectively, and published a research report directed towards a more scholarly audience. Furthermore, 172 of the Itaya clan's most important documents and items have been made public on the Tokyo National Museum's website as database, and we finished preparing further materials for continuous updates.

研究分野：日本美術史

キーワード：板谷家 御用絵師 粉本 下絵 模写 やまと絵 近世絵画 データベース

1. 研究開始当初の背景

板谷家は、江戸幕府の御用絵師住吉広守(1705~77)の弟子慶舟広当(1729~97)が、住吉家を継いだ後、板谷家に復したことに始まる幕府御用絵師の家系で、江戸におけるやまと絵画風の継承流派である住吉派の支流として、代々幕府の御用を務めた家系である。

平成22年3月、板谷家に伝来した下絵や模写、抜き写しなどを含んだ粉本、古文書、印章など10629件の資料が板谷家第八代当主板谷広起氏の夫人静子氏から、「板谷家伝来資料」(A-12372)として東京国立博物館に一括寄贈された。同家の古文書の一部は、大村西崖編『東洋美術大観 五』(明治42年 審美書院発行)の板谷家歴代の事績を紹介する文章の中で、「板谷家の旧記原本板谷広永蔵」として翻刻し使用されているものの、粉本、模写等は、未紹介であり、御用絵師の活動ならびに作画学習の様子を知ることのできる原資料として貴重なものである。

さらに、「板谷家伝来資料」には、江戸時代の御用絵師としての活動を示す資料以外に、明治維新後の新政府役人としての活動を記録した文書なども含まれており、江戸幕府の御用絵師が江戸幕府制度の解体後に歩んだ姿もしのぶことが出来る重要資料である。しかしながら、「板谷家伝来資料」は、その貴重性に反し、個人の自宅で保管されてきたため保存状態が良好とはいえず、量が膨大であるため分類整理も十分ではなかった。そのためこれらの資料を一般に公開できるようにするため、整理を行って、目録作成とデータ化を進めることが必要であった。

また、近年の御用絵師研究が狩野派を中心におこなわれてきたのは、住吉派や板谷派の資料が乏しかったためである。「板谷家伝来資料」による研究が、やまと絵側からの新たな御用絵師研究として重要な意味を持つものと考えられた。

2. 研究の目的

「板谷家伝来資料」を基礎資料として、その解読・翻刻、粉本類の画題特定を行い、あわせて国内外に所蔵される板谷派絵画の所在確認と調査を実施して、粉本類と本画との比較を行なうことで、相互に関連する資料群を、歴史的、美術史的な側面から総合的に分析、18世紀後期御用絵師の活動の実態を解明することを目的とした。

その成果を生かして、資料の整理と目録化を進め、「板谷家伝来資料」データベース構築が可能となるように資料の整理をおこなうこととした。

3. 研究の方法

(1) 東京国立博物館が所蔵する「板谷家伝来資料」を主な対象として、公開に向けて資料目録の精度を高めるために、一点一点の解読、翻刻、画題の特定、撮影を行なった。また、画題特定の精度を高めるために、資料の

画題検討会を随時開催した。

(2) 国内海外に所蔵される板谷家、住吉家の作品、また「板谷家伝来資料」中に下絵等関連資料が見出せる作品について所在の確認、作品の調査、分析、を行ないデータの蓄積を行なった。

(3) 研究分担者、協力者を集めての研究会を開催し、調査の成果とりまとめと分析を行なった。

4. 研究成果

(1) 「板谷家伝来資料」調査

東京国立博物館所蔵の板谷家伝来資料について、解読、翻刻、画題の特定を行い得られた成果をまとめた報告書「板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究」を作成・刊行し、以下の論考を掲載した。

板谷家伝来資料と調査実績概要 田沢裕賀

板谷家伝来の史料について 田中潤

狩野晴川院『公用日記』にみえる板谷氏の相続 池田宏

板谷家の画祖と仏教絵画 瀬谷愛

板谷家のやまと絵について 金井裕子

住吉・板谷の絵画鑑定 下原美保

板谷家の障壁画 朝日美砂子

板谷家伝来資料の写生図と岡本善悦について 加藤弘子

善光寺大本願の岡本善悦筆「春夏花鳥図屏風」について 山下善也

板谷家伝来資料の中国絵画模本二例について 狩野家伝来資料との関連から 小野真由美

「名古屋東照宮縁起絵巻」と「賢聖障子」製作に見る板谷家の御用 鎌田純子

板谷家伝来資料にみられる有識故実関係資料 田中潤

板谷広春の東海道地取に関する考察 將軍家茂上洛随従を中心に 大橋美織

近代における板谷家 明治時代初期の元御用絵師 戸矢浩子

(2) 現存作品の調査

尾張徳川家の墓所である名古屋市東区の

建中寺で、徳川宗睦が寄付した広当筆の「五百羅漢図」、名古屋東照宮で、「名古屋東照宮縁起絵巻」。徳川美術館で、寛政度御造営の京都御所紫宸殿の賢聖障子関連作品の調査を行ない、尾張徳川家ゆかりの板谷家の絵画制作の調査を行った。また、栃木・日光山輪王寺の輪王寺本「東照宮縁起」の調査を行い、何代かにわたって作品の制作を行う御用絵師の実態を明らかにした。

東京藝術大学に所蔵される、住吉家模本調査では、東京藝術大学所蔵の「弘定地取帖」が将軍徳川家慶に同行した際の住吉弘定（弘貫）のスケッチで、「板谷家伝来資料」中の「地取絵帳」が、板谷弘延が現地で同時に描いたものであることが確認された。真景図制作の背景が明らかとなり、地取りを整理して草稿、下絵、本画と順に制作が進んだことが明らかとなった。

「板谷家伝来資料」中に含まれている「飛天図」や「天井画配置図」が、南魚沼市普光寺山門（仁王門）天井画の下絵であることが確認され、板谷家の関わった共同制作の作品であること、そして天井画制作の過程を知る貴重な資料であることが明らかとなった。

安政三年（1856）第十三代将軍徳川家定からオランダ国王ウィレム三世に贈られた板谷弘延「宇治製茶図屏風」（オランダ・ライデン民族学博物館に所蔵される）の草稿と伺下絵が「板谷家伝来資料」中に発見され、狩野派による先行作品を粉本として利用していることも確認され、当時の絵画制作の一端が明らかとなった。

(3) 展覧会開催

平成23年10月25日～12月4日東京国立博物館本館特別2室を会場として、特集「板谷家の絵画とその下絵」を開催し、東京国立博物館所蔵の板谷家・住吉家の本画とこれに関連する「板谷家伝来資料」中の下絵類を合わせて展示する初の試みを行なった。これにより、粉本の改変によって類似作品を制作していることなど、これまでほとんど知られていなかった板谷家の作品制作の実態を、実例を通して一般向けに紹介した。

平成28年1月2日～2月14日東京国立博物館平成館企画展示室を会場として、特集「江戸幕府御用絵師板谷家の仕事」を開催し、調査によって見出された板谷家歴代の作品とそれらの作品に関わる「板谷家伝来資料」中の下絵類を関連づけて展示することで、板谷家の画風変遷と、制作活動を一般向けに紹介した。

(4) データベース公開

平成23年から調査した板谷家伝来資料のうち重要資料をデータベース公開し、その利用性と内容を検討して資料データの増補公開する準備をおこなった。（順次データ追加予定）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

小野 真由美、近衛家と典薬頭・錦小路頼庸 その日記にみえる絵事について MUSEUM、査読有、646、2013、27-48

下原 美保、やまと絵の継承と展開 桃山時代以降のやまと絵、別冊太陽 やまと絵 日本絵画の原点、査読無、201 巻、2012、168-183

下原 美保、ボストン美術館蔵「徒然草図」について、鹿児島大学教育学部研究紀要、査読無、63 巻、2012、23-31

〔学会発表〕(計4件)

KATO, Hiroko, The renewal of vision in painting under Tokugawa Yoshimune, AAS 2016 75th Annual Conference, 2016-04-01, Washington State Convention Center (シアトル・アメリカ合衆国)

加藤 弘子、徳川吉宗が先導した視覚と図像の更新について 岡本善悦豊久の役割を中心に、東京文化財研究所 企画情報部研究会、2015年11月24日、東京文化財研究所（東京都・台東区）

瀬谷 愛、板谷家伝来資料と住吉・板谷家の仏教絵画制作、美術史学会東支部例会、2015年9月26日、東京藝術大学 上野キャンパス（東京都・台東区）

TAZAWA, Hiroyoshi, Likeness and Presence on Japanese Portrait (日本の肖像画における型と肖似性について), The International Symposium on East Asian Portrait, 2011-10-29, 韓国国立中央博物館 (ソウル・韓国)

〔図書〕(計5件)

下原 美保、住吉派研究、藝華書院、2017、276 (予定)

田沢 裕賀、田中 潤、池田 宏、瀬谷 愛、金井 裕子、下原 美保、朝日 美砂子、加藤 弘子、山下 善也、小野 真由美、鎌田 純子、大橋 美織、戸矢 浩子、東京国立博物館、板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究 平成23～27年度科学研究費補助金研究成果報告書、2016、118

玉蟲 敏子、五十嵐 公一、畑 靖紀、野口 剛、成澤 勝嗣、星野 鈴、黒田 泰三、鶴岡 明美、相澤 正彦、加藤 弘子、松原 茂、並木 誠士、井田 太郎、安藤昌就、村角 紀子、江村 知子、原本『古画備考』のネットワーク、思文閣出版、2013、213-225

下原 美保、彬子女王、渡辺 俊夫、メリッサ・マコーミック、石川 千佳子、高岸輝、瀬谷 愛、虎尾 達哉、村井 則子、ロジーナ・バックランド、チェルシー・フォックスウェル、山崎 剛、深港 恭子、加藤 哲弘、永田 雄次郎、渡邊 雄二、近世やまと絵再考：日・英・米それぞれの視点から、ブリュッケ、2013、219-242

田沢 裕賀、瀬谷 愛、金井 裕子、大橋美織、田中 潤、板谷家の絵画とその下絵、東京国立博物館、2011、8

〔その他〕
ホームページ等

板谷家伝来資料データベース
<http://webarchives.tnm.jp/pages/itaya/>

江戸幕府御用絵師板谷家の仕事
http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1774

板谷家の絵画とその下絵
http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1428

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田沢 裕賀 (TAZAWA, Hiroyoshi)
東京国立博物館・学芸研究部・調査研究課長
研究者番号：80216952

(2) 研究分担者

池田 宏 (IKEDA, Hiroshi)
東京国立博物館・学芸研究部・上席研究員
研究者番号：30176101

山下 善也 (YAMASHITA, Yoshiya)
東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員
研究者番号：40463252

小野 真由美 (ONO, Mayumi)
東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員
研究者番号：90356270

瀬谷 愛 (SEYA, Ai)
東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員
研究者番号：50555133

金井 裕子 (KANAI, Hiroko)
東京国立博物館・学芸企画部・研究員
研究者番号：10443623

加藤 弘子 (KATO, Hiroko)
東京国立博物館・学芸研究部・特別研究員 (PD)
研究者番号：70600063

下原 美保 (SHIMOHARA, Miho)
鹿児島大学・教育学部・教授
研究者番号：20284862

鎌田 純子 (KAMATA, Junko)
帝京大学・文学部・講師
研究者番号：60390746

富坂 賢 (TOMISAKA, Ken)
九州国立博物館・学芸部・文化財課長
研究者番号：40415617
(平成23~25年度)

塚本 磨充 (TSUKAMOTO, Maromitsu)
東京大学・東洋文化研究所・准教授
研究者番号：00416265
(平成23~26年度)

大橋 美織 (HASHI, Miori)
静嘉堂文庫美術館・学芸員
研究者番号：10584477
(平成23年9月まで東京国立博物館所属、平成24年度から研究協力者)

(3) 連携研究者

古田 亮 (FURUTA, Ryo)
東京藝術大学大学美術館・准教授
研究者番号：20259998

龍澤 彩 (RYUSAWA, Aya)
金城学院大学・教授
研究者番号：00342676